



Toi Story 6



●いよいよ大会が今月となりました。

紀要、授業、環境面とお世話になっています。ありがとうございます。大会当日まであと少し！
沖洲小みんなで、「知りたい！」「聞きたい！」「本当に？」「どうする？」を育てていきたいです。
また、ご協力よろしくお願いいたします。



分科会で、どのような質問がくるかは、分かりませんが…。
どう答えたらいいかわからない！
今回は、そんなあなたにお届けするQ & A集です！
お役に立てばうれしいです😊



A、B、Cの判断ってなに？？何がどうちがうの？？



目的や設定する場面が違います。

Aは社会への関わり方を考える判断。「自分たちにできること」を考えるような判断です。
Bは深く分かることにつながる判断。判断することで、社会の特色や意味に迫ります。
Cは見通しをもつことにつながる判断。今後の学習につながる予想を含む判断です。
Aの判断は、文科省が示す選択・判断と同義としているので、できる単元が限られます。
Bは多くの場面で使えます。Cは問題把握の一層目で使うことが多いです。



問い続けるってどんな姿？



様々な場面や姿が想定されます。単元の学習中に新たな問いが生まれ、問いを意識しながら学習を進める姿、単元や学習をこえて、「以前は〇〇と考えていたけれど、本当に…？」「学習した〇〇は、これからどうなっていくのだろう。」などと、繰り返し自分自身に問いかける姿などが考えられます。
(本単元での具体的な姿として、「 」「 」のような姿を想定しています。)(まだ、なかなかそこまではいきませんが、問いを見つけようとする姿は見られるようになっていきます。)



総合との棲み分けは？



目標が違います。

ざっくり言うと、社会科は内容教科なので内容知、総合的な学習の時間は、領域なので、方法知と捉えています。社会科では、単元の目標を達成することに必要な内容をおさえています。総合的な学習の時間では、自分やクラスの興味・関心にあわせて、柔軟に対応しながら学び方を学ぶイメージです。

それぞれの目標があるので、社会科のために総合的な学習をしているのではありませんが、教科横断的に、学びを活用することが効果的だと考え、社会科での学びを総合に、総合での学びを社会科にいかしていければと思っています。



伝え合いとは？話し合いとのちがいは？



「伝え合い」を、決して一方的な意見発表としては捉えていません。相手の意見を共感的に、あるいは批判的に受け入れ、比較して考えたり折り合いをつけたりしながら、自分の考えや集団の考えを深めていこうとするものです。

具体的な場面としては、話し合いを主として考えていますが、文字言語や資料などの手段も考えられます。自己内対話や教材との対話も含めて考えているため、「伝え合い」としてしています。



「どれも大事」に選ぶ意味、話し合う意味はある？



結果として、「どれも大事」にたどり着くことは、十分にありえますし、そこをめざすこともあります。ただ、最初から「どれも大事だね。」とするよりも、**子どもたちがあえて決めて、選んで伝え合った結果として「どれも大事」が見えてくる**ことが大切だと考えています。子どもたちにも、伝え合う過程の大切さを伝えています。



「いちばん〇〇は？」を聞くのに、いちばんを決めないの？



根拠や理由をもって自分なりのいちばんを決めることが大切な場面もあります。また、結果として、いちばんを決める必要がない場面でも、選ぶことをきっかけにして、対話が生まれ、より深く認識できると考えています。「どれが大事？」を考えることと同様に、子どもたちがあえて決めて、選んで伝え合った結果として、見えてくることや、その過程を大切にしたいと考えています。



「みんなで考え話し合う」と「ひろげ深める」のちがいは？
「ひろげ深める」でBの判断をするなら、深く分かっていなかったということ？



「みんなで考え話し合う」は単元の中心概念を獲得する場面、学習問題の解を出す場面です。単元の個別の認識を、より大きなまとまりのある概念として、解を出すイメージです。
「ひろげ深める」は、その中心概念も含めて、今までの認識をいかして、さらに発展的に学習する場面です。獲得した中心概念をいかすことにより、単元の学習をより深く認識することや汎用的に考えたりすることをめざしています。

思いつくままに書いてみましたが、各学年で、「こんなことを聞かれそう…。」「どう答えていいやら…。」のようなものがあれば、一緒に考えますので、教えてください。
あとちょい！いっしょにがんばってください！よろしくお願いします。